

# 大仙市花火産業構想の 概要について

令和元年8月 秋田県大仙市



# I 実施経過・交付金活用状況

## これまでの実施経過

時期	内容	時期	内容
平成26年 3月28日	花火産業構想策定プロジェクト会議開催 花火産業構想第Ⅰ期策定	平成28年 3月15日	花火産業構想推進プロジェクト会議開催
平成27年 3月 6日	花火産業構想推進プロジェクト会議開催 花火産業構想第Ⅰ期アクションプラン策定	平成29年 3月31日	(株)花火創造企業煙火製造工場完成
平成27年 4月 1日	(株)花火創造企業設立	平成29年4月24～29日	第16回国際花火シンポジウム（日本・大仙市）開催
平成27年 6月18日	足利工業大学（現：足利大学）・大曲の花火協同組合・大仙市が連携協定締結	平成29年 6月26日	花火産業構想推進プロジェクト会議開催
平成27年 9月21～25日	第15回国際花火シンポジウム（フランス・ボルドー）視察	平成30年 6月18日	花火産業構想推進プロジェクト会議開催
平成27年 9月30日	(株)花火創造企業事務所棟完成	平成30年8月5日	花火伝統文化継承資料館はなびアムオープン

## 交付金活用状況

活用時期	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
交付金名称	地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金 (通称：地方創生先行型交付金)	地方創生加速化交付金	地方創生推進交付金	
補助率	10分の10	10分の10	2分の1	
交付決定額	基礎交付分 111,248千円 上乗せ分 14,467千円 合計 125,715千円	80,000千円	25,141千円 (事業費ベース：50,282千円)	26,298千円 (事業費ベース：52,596千円)
主な交付金活用事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際花火シンボ旅費・出展費…約16百万円</li> <li>創造企業事務所建設補助… 約 5百万円</li> <li>創造企業雇用助成… 約 4百万円</li> <li>花火の色研究・講師謝金… 約 4百万円</li> <li>花火原材料（マツ炭）研究費… 約 6百万円</li> <li>花火エリア開発・増殖費… 約 4百万円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創造企業機械設備導入補助… 約5百万円</li> <li>国際花火シンボ語学講座… 約1百万円</li> <li>花火の色研究・講座謝金… 約3百万円</li> <li>花火原材料（マツ炭）研究費… 約3百万円</li> <li>花火エリア開発・増殖費… 約4百万円</li> <li>お土産商品ブランド開発委託…約5百万円</li> <li>台湾販路開拓人材育成委託… 約5百万円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マツ炭製造備品購入費… 約16百万円</li> <li>マツ炭製造運営費補助… 約 1百万円</li> <li>花火の色研究・講座謝金… 約 3百万円</li> <li>花火原材料（マツ炭）研究費… 約 3百万円</li> <li>花火エリア開発・増殖費… 約 4百万円</li> <li>お土産商品ブランド開発委託…約 5百万円</li> <li>台湾販路開拓人材育成委託… 約 5百万円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創造企業炭粉砕施設補助… 約28百万円</li> <li>マツ炭製造運営費補助… 約 2百万円</li> <li>花火原材料（マツ炭）研究費… 約 2百万円</li> <li>花火エリア開発・増殖費… 約 4百万円</li> <li>お土産商品ブランド開発委託… 約 4百万円</li> </ul>

## Ⅱ 主要事業

### ① 花火伝統文化継承資料館整備事業



**平成30年8月5日オープン**

- 花火文化の発信を通じ地域活性化に資する「花火伝統文化継承資料館 はなび・アム」を整備
- 「花火のまち」として全国に散逸する花火関係資料を民間団体と協働で収集・保存
- 誘客の目玉として4K4面マルチスクリーン「はなびシアター」や世界的影絵作家・藤城清治氏の大作「大曲の花火」のレプリカを設置
- 花火大会以外でも立ち寄れる通年観光の拠点として運営中

**令和元年7月末まで65,707人の入館**

#### ■ 施設概要

構造・規模	鉄骨造4階建
面積	建築面積：473.78㎡／延床面積：1,661.13㎡
建設工事費	約8億2,300千円 財源) 社会資本整備総合交付金：2億8,000万円 あきた未来づくり交付金：1億円 合併特例債：3億9,000万円 市一般財源：5,300万円
閉館日	月曜日（祝休日にあたる場合は翌平日）
開館時間	花火伝統文化継承エリア（3～4階） 9:00～16:00 生涯学習活動エリア（主に1～2階） 8:30～21:00
組織体制	職員9名（館長、職員3名、事務員・事務補助5名）

#### ■ 整備スケジュール

工程	27年度	28年度	29年度	30年度
基本設計	12～3月			
解体工事(女性セ・区画)		6～9月		
実施設計		6～翌3月		
新築工事			6月～翌5月	
産業展示館改修工事			6月～翌5月	
外構工事			3月～5月	
解体工事(青少年ホ)				9～12月

平成30年8月オープン

## Ⅱ 主要事業

## ② 花火師育成事業／花火の共同研究・開発事業

### 大仙市、足利工業大学及び大曲の花火協同組合の連携協定締結式



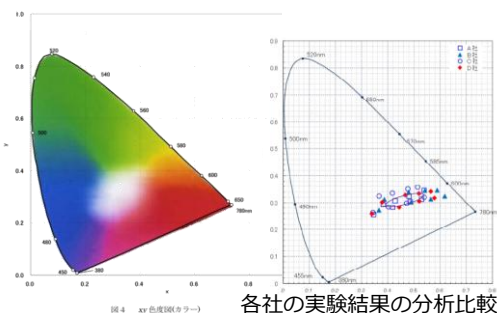
### 足利工業大学との連携協定

- 平成27年6月、全国で唯一「煙火学」の専修課程を持つ足利工業大学（現:足利大学）と大曲の花火協同組合、大仙市が連携協定を締結
- 花火の色の研究や花火師資格取得講座など花火師の育成に繋がる様々な事業を実施



足利大学 創生工学科  
教授 工学博士 丁大玉 氏

### ■ 花火の色の研究



年度	研究テーマ
H27	青色火に関する研究
H28	桃色火に関する研究
H29	硫酸バリウムを用いた緑光剤に関する研究／桜色火に関する研究

### ■ 資格取得講座



年度	開催実績
H27	対象資格：火薬類保安責任者（取扱・乙種） 期間：8月31日～9月4日／受講者16名、合格者12名
H28	対象資格：火薬類保安責任者（製造・丙種） 期間：8月29日～9月2日／受講者14名、合格者10名
H29	対象資格：火薬類保安責任者（取扱・乙種） 期間：8月28日～9月1日／受講者7名、合格者5名

### ■ 花火師向けスキルアップ講座



開催実績
第1回：平成28年3月16日／受講者59名 「花火の発光発色および青色火について」
第2回：平成29年3月14日／受講者42名 「火薬の燃焼性能」
第3回：平成30年3月20日／受講者82名 「火薬類の着火性」
第4回：平成31年3月27日／受講者89名 「火薬類の仕組みと危険性」

### ■ 高校向け特別講座



年度	開催実績
H27	期間：平成28年3月15日～17日／受講者：169名 対象校：大曲、大曲工業、西仙北、秋田修英、六郷
H28	期間：平成28年9月13日～15日／受講者：144名 対象校：大曲農業、大曲工業、西仙北、六郷
H29	期間：平成29年9月12日～13日／受講者：91名 対象校：大曲農業、大曲工業、六郷
H30	期間：平成30年9月11日～12日／受講者：93名 対象校：大曲農業、大曲工業、六郷

## Ⅱ 主要事業

### ③ 花火工場運営会社設立事業／花火生産拠点整備事業



(株)花火創造企業が整備した煙火製造工場(平成29年3月完成)

#### ■ 整備スケジュール・主な事業費

	工程	27年度	28年度
会社実施分	事務所棟設計・工事	5～9月	
	工場内建物配置検討	4～6月	
	火薬類取締法関係協議		12～翌5月
	建築基準法関係協議		12～翌5月
	工場設計		10～翌5月
	工場建築工事		9～翌3月
	主な事業費	事務所棟建築:27,756千円(内、市補助:5,000千円)	工場建築:390,000千円(内、市補助:100,000千円) 設備整備:14,941千円(内、市補助:4,980千円)
市実施分	現況測量	4～7月	
	実施設計・開発行為	5～9月	
	造成工事(道路・水道含)		9～翌7月
	主な事業費	測量業務:4,588千円/造成実施設計:4,298千円 造成工事:8,763千円	造成工事:82,153千円

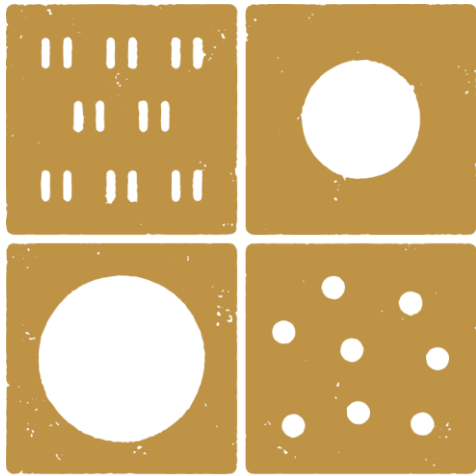
- 国内の花火玉は約7割が海外産、特に4号(約12cm)以下の小玉の多くが海外産という状況。海外産は火付きが悪い・安全性が低い・納期が不安定などの課題あり
- 資本金8千万円(既存花火会社4社、県内3金融機関、ほか地元経済人が出資)で「(株)花火創造企業」を設立。市は出資せず、敷地造成・貸与、雇用助成、工場建設等で支援
- 「大曲の花火」ブランドを活かし、安全で高品質な小型花火玉を全国へ供給することを目指す。新規に16人を採用し、平成29年4月から製造開始



設立時記者会見  
(代表取締役社長:小松忠信氏)



事務所棟(平成27年9月完成)



秋田・大仙

せんのぜん

大仙市お土産商品ブランド「秋田・大仙 せんのぜん」

■ 第1弾発売商品（平成30年4月7日～）



特選あきたこまち  
648円



秀よし純米吟醸酒  
710円



三杯もち 赤あん 140円  
えごま 150円



純粋アカシアはちみつ  
糖度82% 1,200円/  
糖度78%・82%セット  
2,000円



みずの漬物 540円



さけジャーキー  
600円



特選あきたこまち  
プレミアムスティック 270円

- 〈せん〉は大仙市を意味すると同時に、「非凡なもの、特別なもの」を表す
- 米・大豆どころの大仙市の風土を活かした様々な商品が並ぶ様子を〈膳〉という言葉で表現
- ロゴマークは、お膳と田んぼの形をモチーフに「豊かな食を大仙市から発信する」というメッセージを込める



- 大仙市観光情報センター「グランポール」（JR大曲駅2階）で発売中
- 今後、セット販売用化粧箱の制作や取扱店舗の拡大、ラインアップの充実に取り組む

## Ⅱ 主要事業

### ⑤「メイド・イン・大仙」の花火玉原料開発・普及事業



▲秋田県立大学 木材高度加工研究所



◀所有する研究設備（耐火炉）

- 国内の花火玉は完成品だけではなく原料となる「炭」も大部分を輸入に依存
- 秋田県立大学と連携、花火の原材料となり得る県内農林資源を調査結果、アカマツの活用が有望と判明
- 大仙市にて花火用マツ炭を生産・製品化全国の花火会社へ販売する計画

#### ①マツ炭の製造(炭焼き) 平成29年度～

#### ②マツ炭の粉碎 平成30年度～

事業主体：(一社)大仙市観光物産協会

事業主体：株式会社花火創造企業



火薬に成形されたマツ炭

平成29年度推進交付金を活用し、市が炭焼き窯等を購入（約3百万円×4台）

観光物産協会へ貸付し炭焼きを開始

平成30年度推進交付金を活用し、花火創造企業のマツ炭粉碎施設整備に対し市が支援

#### ■実施スケジュール・事業費

年度	実施内容	事業費（市実施分）
H27	・大学と共同で花火玉原料炭開発に着手。県内産のマツ、スギ、もみ殻等の成分分析を実施 ・(株)セーコン開発のエコ玉皮購入費用を助成	研究事業 6,138千円 エコ玉普及 2,210千円 計 8,348千円
H28	・花火に適したマツ炭の製造条件について研究 ・炭の粉碎加工・コスト調査研究を実施	研究事業 3,935千円
H29	・(一社)大仙市観光物産協会が事業主体となり、新たに導入した人工窯4基を用いた花火玉原料用のマツ炭の本格生産を開始 ・原料となるマツはアカマツのほか、クロマツの正常木及び枯死木についても活用できることを確認	生産設備導入 16,034千円 研究事業 3,325千円 生産運営費補助 1,353千円 計 20,712千円
H30	・製品化するマツ炭の品質管理に関する研究を実施 ・(株)花火創造企業が事業主体となり、マツ炭の粉碎施設を整備	粉碎施設補助 28,000千円 研究事業 1,995千円 生産運営費補助 1,750千円 計 31,745千円

## Ⅱ 主要事業

### ⑥「大曲の花・美（はな・び）」開発事業

#### I 期生（平成27年度開発）



八重芯(やえしん)



和火(わび)



顕芯(けんしん)



紫銀乱(むらさきぎんらん)

#### Ⅱ 期生（平成28年度開発）



紅遊星(べにゆうせい)



雪紫(ゆきむらさき)

- 花火を連想させるダリアの新品種を開発、ブランド化を進め販売
- 開発を秋田国際ダリア園、増殖を J A 秋田おばこに委託
- 平成30年度までに10品種の開発が完了
- 平成30年6月「花火ダリア」として商標登録
- 現在、J A ダリア部会員にて栽培普及を推進

#### Ⅲ 期生（平成29年度開発）



橙炎(とうえん)



花紫音(はなしおん)

#### Ⅳ 期生（平成30年度開発）



紫ながれ(むらさきながれ)



明変化(あかへんげ)



大仙市観光物産協会開発  
ダリア焼酎「大仙の華」  
(720ml/アルコール分：25%)



*Omagari Hanabi Dahlia*  
燗めく一瞬を一輪に  
記念日に「大曲の花火」ダリア



## Ⅱ 主要事業

## ⑦ 国際花火シンポジウム誘致推進事業

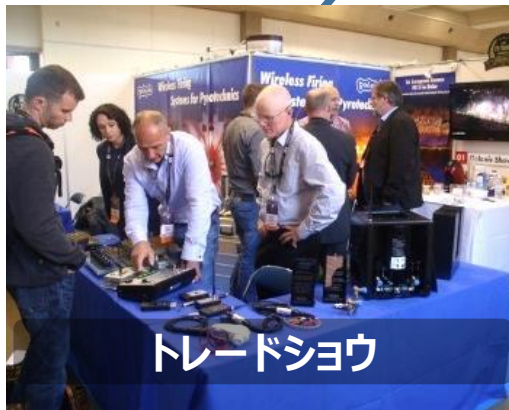
○各国の花火関係者(研究者、製造業者、プロモーター等)が一堂に会する国際会議(概ね2年に一度開催)

○第15回大会(フランス)に市長・商工会議所会頭が出席誘致に向けたプレゼンテーションを実施、次回開催地に決定

○大仙市大会では、日本を含む38の国と地域から449名が参加期間中、花火イベント「大曲の花火～春の章～」を同時開催観光消費、主催者消費支出、雇用効果等で約14億5千万円の経済波及効果(株)フィデア総合研究所)



プレゼンテーション



トレードショー



観光イベント

### ■これまでの開催歴

開催回	年	開催地	開催回	年	開催地
第1回	1992	モントリオール(カナダ)	第9回	2006	ベルリン(ドイツ)
第2回	1994	バンクーバー(カナダ)	第10回	2007	モントリオール(カナダ)
第3回	1996	ウォルトディズニーワールド(アメリカ)	第11回	2009	プエルトバヤルタ(メキシコ)
第4回	1998	ハリファクス(カナダ)	第12回	2010	ポルトノガイア(ポルトガル)
第5回	2000	ナポリ(イタリア)	第13回	2012	マルタ(マルタ)
第6回	2001	ウォルトディズニーワールド(アメリカ)	第14回	2013	長沙(中国)
第7回	2003	パレンシア(スペイン)	第15回	2015	ポルドー(フランス)
第8回	2005	滋賀(日本)	第16回	2017	大仙(日本)

### ■第16回大会日程(大仙市開催時)

4月24日(月)	25日(火)	26日(水)	27日(木)	28日(金)	29日(土)
開会式					
11:00～12:30 論文発表	9:30～12:30 論文発表	9:30～12:30 論文発表	9:30～12:30 論文発表	10:30～12:30 論文発表 記念撮影	
昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
13:30～17:30 論文発表	13:30～18:00 論文発表	13:30～15:00 グループ討論 15:30～21:30 OPツアー ・屋花火打上 ・薪能公演	13:30～18:00 論文発表	論文発表 閉会式	14:30～19:00 OPツアー ・花火工場見学 ・打上現場見学 ・酒蔵見学
18:00～20:00 歓迎パーティー 花火打上	花火打上		花火打上	17:30～20:00 晩さん会 花火打上	花火打上
展示会 11:00～17:00	展示会 9:30～18:00	展示会 9:30～14:30	展示会 9:30～18:00	展示会 9:30～12:00	

### ■実施スケジュール・事業費

年度	H27	H28	H29
実施内容	フランスで国際花火シンポジウム誘致活動と日系旅行会社へのトップセールスを実施	・4月29日に記念フォーラムと「春の章」からなる「国際花火シンポジウムプレ大会」を開催 ・シンポジウム協会(本部:カナダ)との協議を重ね実施計画を具体化 ・ボランティア養成講座、おもてなし講座を開催	・平成29年4月24～29日に第16回国際花火シンポジウムを開催。花火に関する研究発表やグループ討論のほか、トレードショー、付帯イベントを実施。期間中に「大曲の花火～春の章～」を同時開催
事業費	旅費・出展費等 15,813千円	プレ大会開催費 36,740千円/海外花火玉輸送費(本大会用) 34,370千円/その他本大会準備経費 13,674千円 計 84,784千円	シンポジウム開催費(会議部分) 27,875千円/春の章開催費 117,187千円 計 145,062千円

# Ⅲ 指標目標の達成状況

## 目標1 花火文化に対する理解の深耕拡大と花火に関する人材育成環境の構築を目指す

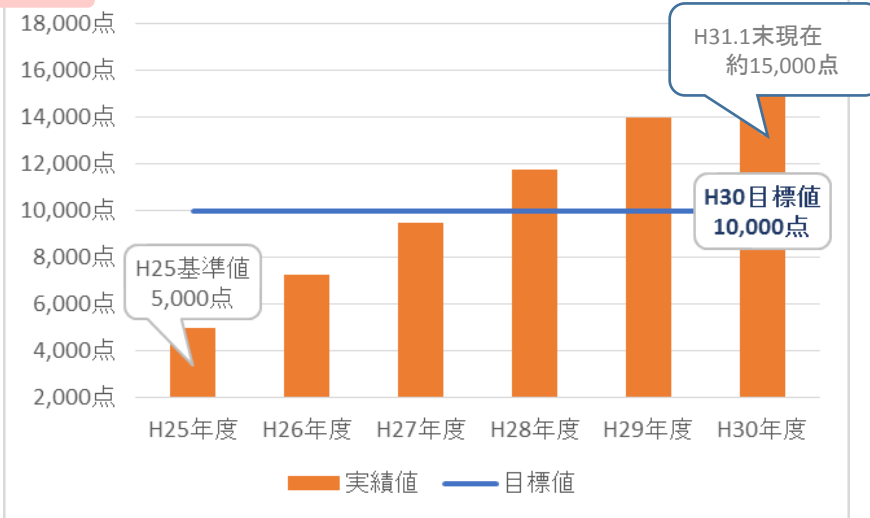
### (1)花火資料収集点数

H30年度目標値: **10,000点**

目標 **最新値(H31年1月末時点): 14,981点**

当初値 (構想策定時点、H25.12)	5,000点
○大仙市花火伝統文化継承事業による効果	5,000点
○(仮称)花火伝統文化継承資料館整備による効果	
○花火文化資料展示事業による効果	
目標値 (H30年度)	10,000点

#### 実績



評価：所期の目標（1万点）を大幅に上回る資料を収集。資料館の存在を発信していくことで、全国からのさらなる資料提供の呼びかけに効果が期待できる。今後は収集した資料の活用・発信も並行的に検討しつつ、文化的価値の高い資料収集に継続的に取り組む

### (2)花火関連施設入場者数

H30年度目標値: **27,750人**

目標 **最新値(H30年8~1月末): 29,284人**

当初値 (構想策定時点、H24年度)	23,283人
○大仙市花火伝統文化継承事業による効果	4,467人
○(仮称)花火伝統文化継承資料館整備による効果	
○花火文化資料展示事業による効果	
目標値 (H30年度)	27,750人

#### 実績

年度	H24年度 (基準値)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
実績値	23,283人	22,362人	22,671人	21,025人	22,392人	23,425人	27,750人 (目標値)
(内訳)							
花火庵	16,465人	16,613人	17,437人	15,974人	16,878人	20,571人	—
産業展示館	6,818人	5,749人	5,234人	5,051人	5,514人	2,854人	—
花火資料館	—	—	—	—	—	—	<b>29,284人</b>

※H30年度の数値は、花火資料館開館以降の8~1月末時点

評価：花火資料館の完成が最終年度（平成30年度）であることから、現状では効果が現れづらい状況となっている。今後は花火資料館での常設展示とともに、別館と位置付ける産業展示館での企画展示と合わせ、広く花火を知り、学び、触れる機会の提供に努める

## 目標 2

# 花火を起点とした地域経済活力の向上と交流人口の増加を目指す

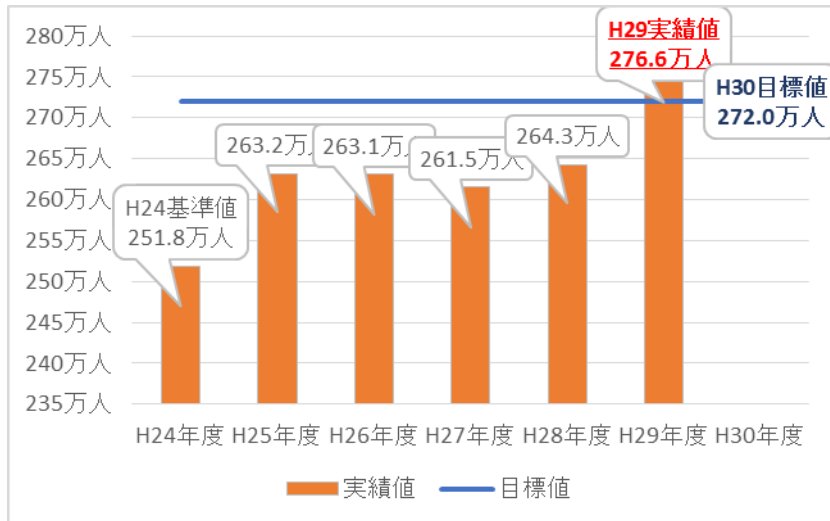
### (1) 交流人口(年間観光入込客数)

H30年度目標値: 272.0万人

目標 **最新値(H29年度): 276.6万人**

当初値 (構想策定時点、H24年度)	251.8万人
<ul style="list-style-type: none"> <li>○花火生産拠点整備事業</li> <li>○花火工場と周辺既存施設を活用した通年観光の推進事業</li> <li>○戦略的花火ブランド活用事業</li> <li>○国際花火シンポジウム誘致推進事業ほか</li> </ul>	20.2万人
目標値 (H30年度)	272.0万人

#### 実績



評価：全国花火競技大会など大型イベントでの天候不順が数値に大きく影響を及ぼすものの、H29で目標値を達成。春の章・秋の章など年間の花火イベントが定着し、増加の傾向。今後は資料館と工場視察や花火作り体験の組み合わせにより通年での誘客を目指す。

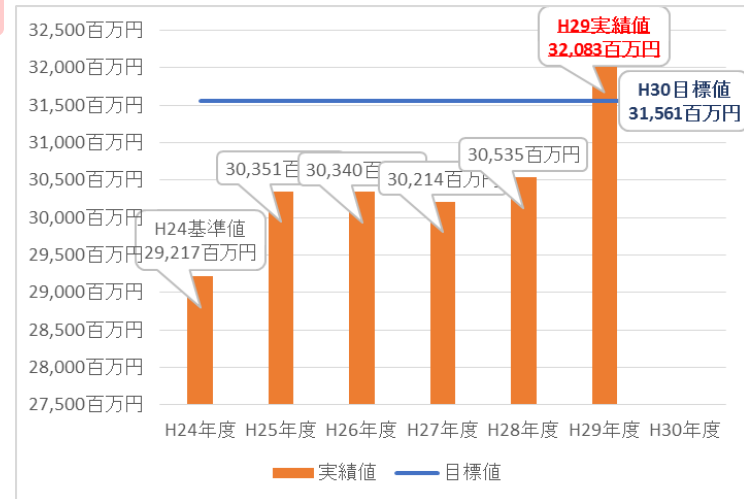
### (2) 交流人口増加による経済波及効果

H30年度目標値: 31,561百万円

目標 **最新値(H29年度): 32,083百万円**

当初値 (構想策定時点、H24年度)	29,217百万円
<ul style="list-style-type: none"> <li>○花火生産拠点整備事業</li> <li>○花火工場と周辺既存施設を活用した通年観光の推進事業</li> <li>○戦略的花火ブランド活用事業</li> <li>○国際花火シンポジウム誘致推進事業ほか</li> </ul>	2,344百万円
目標値 (H30年度)	31,561百万円

#### 実績



※交流人口を基に、「平成17年秋田県産業連関表」を使用し経済波及効果を算出

評価：交流人口と連動した算出方法としており、同様にH29で目標値を達成。観光客の本市への訪問1回当たりの滞在時間増加が経済効果の増加に結び付くと考えられ、花火イベントでの重点的な宿泊の促進、食事・お土産メニューの充実に一層努める必要がある。

# IV 大仙市花火産業構想 第Ⅱ期

## 1. 第Ⅱ期構想の策定 >>> 平成31年度スタート

- 日本全体が人口減少局面を迎え、今後、地域経済の規模縮小、地域間競争の激化が懸念  
地域活力の源泉となる「産業の育成・振興」、「都市の個性や魅力づくり」が喫緊の課題
- 「花火産業構想」は、日本最高峰の花火競技大会「大曲の花火」が有するブランド力を  
最大限活かし、観光だけではなく、商業や製造業、農業、文化・教育など様々な分野に波及させ  
地域を元気にしようとする新たな概念の産業振興方策
- 第Ⅰ期構想を検証、改善や新規事業の追加を行い、平成31年度から第Ⅱ期構想をスタート

### 花火産業の定義

「大曲の花火」  
工業 × 観光 × 商業 × 農業 × 文化 × 教育  
発信・PR

### 構想期間

H31 (2019) ~ R5(2023)年度 (5カ年)

### 基本コンセプト

『日本の花火』の持続的発展 と 地域経済の活性化

# IV 大仙市花火産業構想 第Ⅱ期

## 2. 目標とKPI

関連する施策	目標とKPI	現状値	→	目標値（R5年度）
<b>目標1 花火文化に対する理解の深耕拡大と花火に関する人材育成環境の構築を目指す</b>				
<b>施策1</b>	花火資料収集点数	約15,100点（累計）	（H30年度末時点）	→ 23,500点（累計）
	花火伝統文化継承資料館の年間利用者数	46,320人／年	（H30年度）	→ 80,000人／年
	「大曲の花火」関連ホームページアクセス数	24.5万人／年	（H30年度）	→ 36.0万人／年
	中心市街地の1日当たり歩行者通行量	3,662人／日	（H29年度）	→ 4,300人／日
<b>施策2</b>	市内花火会社の常用雇用者数	69人	（H29年度）	→ 92人
	本市への1年あたり移住者数	47人／年	（H29年度）	→ 70人／年
	花火関連講座受講者数	1,514人／年	（H29年度）	→ 2,300人／年
<b>目標2 花火を起点とした地域経済活力の向上と交流人口の増加を目指す</b>				
<b>施策3</b>	市内花火会社煙火出荷額	9.3億円／年	（H29年度）	→ 12.7億円／年
	大仙市産花火用マツ炭出荷額	0百万円／年	（H29年度）	→ 8百万円／年
	無線点火システム売上額	0百万円／年	（H29年度）	→ 45百万円／年
	花火イベント企画運営サポート事業売上額	91.4百万円／年	（H29年度）	→ 200百万円／年
<b>施策4</b>	観光入込客数	276.6万人／年	（H29年度）	→ 290万人／年
	外国人宿泊者数	3,384人／年	（H29年度）	→ 6,770人／年
	民泊利用者数	42人／年	（H30年度）	→ 180人／年
	大仙市観光物産協会のお土産売上額	27.0百万円／年	（H29年度）	→ 32.5百万円／年
	観光消費による経済波及効果	183億円／年	（H29年度）	→ 193億円／年

# IV 大仙市花火産業構想 第Ⅱ期

## 3. 基本的な施策と具体的事業

NO.	事業名	事業内容	事業主体（◎：主担当）
<b>施策1 花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す拠点づくり</b>			
1-1	<b>花火伝統文化継承事業</b>	花火に関する資料の収集・保存を行うとともに、花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」を拠点として発信し、花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す施策の推進を図る。	◎市花火伝統文化継承資料館 花火伝統文化継承プロジェクト
1-2	<b>【新規】 「花火のまち」中心市街地環境整備事業</b>	花火をモチーフとしたデザインによる案内看板・サインの整備、中心市街地の低未利用地等の利活用を行い、「花火のまち大仙市」を来街者に印象づけ賑わいを創出する。	◎(株)はなびタウン・リノベーション 市観光課
1-3	<b>花火イベント等情報発信事業</b>	インターネットやコミュニティFMを活用し、「大曲の花火」を中心とした花火イベント等の情報を国内・海外へ向けて発信する。また、各情報の内容は統一化する。	◎市広報広聴課 (株)TMO大曲（FMはなび）
<b>施策2 花火を支える人材育成・研究開発の場の創出</b>			
2-1	<b>花火師育成・確保支援事業</b>	足利大学教授（煙火学専修）を招聘し、火薬類製造保安責任者（乙種）ほか資格取得支援講座、市内高校向け特別講座、花火師向けスキルアップ講座を実施する。	◎市観光課 大曲の花火協同組合
2-2	<b>【新規】 「花火のしごと」魅力発信事業</b>	花火イベントや花火製造など花火に携わる仕事の魅力を無料職業紹介所、首都圏移住相談会等で発信し、若年層の地元定着、移住・定住、UIターン等の促進を図る。	◎市まちづくり課
2-3	<b>「メイドイン大仙」花火原料開発事業</b>	秋田県立大学と連携し、花火に最適なマツ炭の製造条件・粉碎条件のほか、市内産農林生産物の花火製造への活用を研究する。	◎市観光課 大曲の花火協同組合 大仙市観光物産協会
2-4	<b>花火学習プログラム展開事業</b>	「花火鑑賞士」資格制度の普及、資格取得者へのアフターフォローを行い、花火を学び親しむ機会を提供し、花火ファン層の拡大を図る。	◎NPO法人大曲花火倶楽部

# IV 大仙市花火産業構想 第Ⅱ期

## 施策3 日本屈指の花火製造・打上技術を基盤とする新たな花火生産拠点づくり

3-1	<b>【新規】 高品質汎用花火玉製造販売事業</b>	国内屈指の花火製造技術を活用し、輸入が大きな割合を占める5号以下の小型花火玉を製造し国内花火会社へ販売する。	◎(株)花火創造企業
3-2	<b>【新規】 県内産花火用マツ炭販売普及事業</b>	高品質で安定した県内産花火用マツ炭の製造・販売を行い、花火玉の品質向上、山林所得の向上、森林保全を図る。	◎(株)花火創造企業 大仙市観光物産協会
3-3	<b>【新規】 国産無線点火システム販売普及事業</b>	安全性・機能性・操作性に優れる国産の無線点火システムを開発・販売し、国内花火の演出力向上を図る。	◎(株)花火創造企業
3-4	<b>花火イベント企画運営サポート事業</b>	無線点火システムによる高度な演出力、「大曲の花火」運営ノウハウを活用し全国の主催者を対象として花火イベントをワンストップで請け負うサービスを提供する。	◎(株)花火創造企業
3-5	<b>【新規】 花火製造工程の自動化・省力化</b>	手作業が大部分を占める花火製造工程の自動化・省力化に市内各花火会社が取り組み、収益率を向上させる。	◎市内花火会社5社

# IV 大仙市花火産業構想 第Ⅱ期

## 施策4 花火ブランドを活かした観光・商業・農業振興策の強化・拡充

4-1	<b>【新規】</b> 国際花火観光都市交流推進事業	花火イベントで観光振興に取り組む世界の都市との交流により、大会運営や製造技術のノウハウを学ぶとともに、「大曲の花火」を世界に発信し、観光消費と交流人口の拡大を図る。	◎市観光課
4-2	<b>【新規】</b> 国際花火競技大会開催事業	海外で活躍する花火会社、交流のある都市の花火会社が出場する競技大会を開催し、国内花火会社のレベルアップとインバウンド誘客を図る。	◎「大曲の花火」実行委員会 (大曲商工会議所、大仙市)
4-3	<b>【新規】</b> 四季の「大曲の花火」開催・ 販売促進事業	四季に合わせて「大曲の花火」を開催することで、ブランド力を最大限活用し、通年での誘客と観光振興、さらなる認知度向上を図る。	◎「大曲の花火」実行委員会 (大曲商工会議所、大仙市)
4-4	<b>【新規】</b> “あなただけの花火”打上事業	模擬花火玉作り体験、プライベート花火等を内容とした通年型の新たな観光商品を開発し誘客を図る。また、花火打上にはクラウドファンディング等の活用を検討する。	◎市観光課 市まちづくり課 (株)花火創造企業 大仙市観光物産協会
4-5	<b>【新規】</b> 花火イベントにおける民泊活用の推進	「大曲の花火」等の大規模花火イベントにおいて民泊活用を拡大し、観光客数と観光消費額の増加につなげる。	◎市総合政策課 市観光課 大仙市観光物産協会
4-6	お土産商品ブランド「せんのぜん」 展開事業	開発した大仙市お土産商品ブランド「せんのぜん」の参画事業者拡大とラインアップ充実を図り、花火イベントでの消費拡大につなげる。	◎市観光課 大曲商工会議所 大仙市商工会 大仙市観光物産協会
4-7	「大曲の花・美（はなび）」ダリア 販売普及事業	花火を連想させる花卉として開発した「花火ダリア」の認知度とブランド力の向上を図り、関東圏や関西圏、地元での普及・販売に努める。	◎市農業振興課
4-8	「花火のまちのまるごとスタンプラリー」 開催事業	市内各地域の花火イベントを周遊するスタンプラリーを開催し、花火ファンの獲得と通年での誘客を図る。	◎大仙市商工会 大仙市観光物産協会
4-9	地域の花火大会等応援事業	毎月開催される特色ある花火大会の運営を支援するほか、共同研究の成果発表の場とするなど付加価値を向上させ、交流人口の拡大を図る。	◎市観光課